

第1回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

と き 令和2年11月2日

19:30～20:55

ところ 総合福祉センター「ハピネス」

〈農務課所管施策〉

出席者(委員): 及川部会長、三津橋副部会長、筒淵委員、渡邊委員、西村委員、田中委員、
山田委員

出席者(町) : 平野課長、古内上席主幹、梅坪主幹、又村主幹、高野主査、倉澤主任

▽施策項目「農業」

事務事業名「新規就農者等支援事業・農業振興事業・新中核的農業担い手対策事業」

町 : 内容説明

委員 : 新規就農予定者はいるか。

町 : 酪農1件、予定では来年就農する。コロナ禍で就農者の獲得ができにくい状況にある。新規就農フェアでは北海道から参加の8割はリモートだったが、座ってくれる方は1名のみであった。来年就農する酪農家も公社からの紹介、連携を密にしていきたい。

委員 : フェア以外での問い合わせはあるか。

町 : あるが、決まった方はいない。今、検討している一人農業についても考えている。新規就農条例では、2名の就農だが、協力隊の農業支援員という形も検討している。

委員 : 産地パワーアップ事業について、農業振興事業の他にゲノムの補助も含まれているのか。

町 : トマトの保冷库とJA育苗ハウス、きわみファームのハウス3棟なので、ゲノムは別事業としている。

委員 : 事業費の25%が町からの支出、育苗に1,200万円、総事業費4,800万円支出していることになっているが。

町 : 総事業費では、JA は約 6,108 万円、保冷库約 4,900 万円。

委員 : 約 1 億円の 1/4 が町からの補助で良いのか。

町 : JA1/3、きわみが 1/2 の補助残補助をしている。

委員 : きわみと JA で町からいくら出しているのか。

町 : 2800 万円になる。

委員 : これは地方債か。

町 : そうなる。

委員 : 秀品率向上は何を基準としているのか。土耕から養液に変わり、秀品率を上げていこうと考えでの補助金であったが。秀品率向上の基準は今はどこを目指しているのか。土耕と比べてどの程度向上させていこうとしているのか。農務課として土耕と養液の割合はわかっているのか。

町 : JA としてデータはもらっているが、各農家でバラつきはある。

委員 : 今やっている人がほかの作物をやめて、フルーツトマトをやったとしても、やっているのと同じ秀品率となっても、秀品率向上と考えるのか。それが正しい補助金の支出と考えるのか。

町 : 指摘されることはわかる。土耕から養液に変えていこうというスタートであったため、事業名とは合わなくなり、昔と方向性は変わっている部分はあるかもしれない。

委員 : 振興条例を変えることになっているが、このあたりにメスを入れる気は。

町 : パブコメも出ているが、商工と林業と農業を揃えて変えたいという思いでやっている。中核的担い手など大きく変えているもの等メリハリつけてやっている。担い手に重きを置いて変えることを考えている。

委員 : 新規就農者より担い手に手厚くしていくということか。

町 : 補助事業の在り方は町として後押ししていくもので、定着したものは別メニューとして残していくことになる。新規就農条例は別建てとしており、今回は担い手に重視している。

委員 : 農業実習生は来なかったが、来年も職員を研修として派遣するのか。

町 : 今、即答はできないが、町長の判断が大きい。

▽施策項目「農業」

施設カルテ

町 : 内容説明

委員 : 土壌改良施設の生ごみはどのような処理を考えているのか。

町 : 生ごみの量を小さくし、堆肥にし、公共施設に利用することを考えている。

委員 : 具体的には。

町 : サンプル牧場、植栽に使用など。

委員 : その方がコスト的に安いのか。

町 : そう考えている。生ごみの中には生ごみ以外も入っており、それを取り除く手間などのコスト掛かっても安くなると思う。

委員 : 耐用年数 24 年とある。それは本当に耐えられるのか。

町 : 機械等傷みは激しい、コンクリなども痛みは多いが、年数は建物の基準値、実際の消耗は激しい。

委員 : 年数が来ても、まだ使い続けるのか。

町 : 様々な検討が必要だとは思っている。

委員 : もうあの施設は限界だと思っている。今冬など使えなくなるということはないのか。基礎の崩壊などは考えているのか。

町 : 今すぐ使えなくなることは考えていない。使用不能になったら応急で治すしか方法はない。

委員 : 耐用年数を待つのではなく、代替案の準備はしていないのか。どの施設もそうだが、限界まで待つのではない運営を考えていった方がよい。それを検討してもらいたい。

委員 : おうるの加工室について、機械設備のメンテナンスはしていないのか。

町 : 去年はメンテナンスを行った。毎年はすべてできないが、だましましでやっていくしかないのが現状。

委員 : お金はかかるが、シーズン前点検はしてもらいたい、どう思うか。

委員 : 機械は素人で見られないのか。

町 : 業者に見てもらっている。

委員 : 使っている人たちが要望を出してもよいのでは。どうすれば改修できるか。

町 : 広く町民に使われているものであれば、更新もしやすいが、使用者が限定さ

れてしまうようなものは難しいと考える。

委員 : 加工研究所は老朽化率が高いが、改修して民間に渡すのか。

町 : 現状のままで受け入れるところを探すつもりである。令和4年までは努力を重ねていくつもり。研究なのか生産なのか、農業振興なのか、利益追求なのか、検討していかないといけない。

委員 : 現状で加工研究所はどこが買うのか。本腰を入れているのか見えない。もう少し企業的に考えていかないと、そろそろ本当にどうするか。

委員 : 建物が壊れていたり、崩れたりしそうなのか。

町 : それはない。

委員 : 買い手が見つからなかったらずっと続けるのか。

町 : できるだけそういう方向にならない方には考えていきたい。

委員 : 赤字、黒字の収支も大切だが、地域貢献度合いを考えたら、それ以外の視点も必要ではないか。

委員 : 育苗の料金買い改定はいつからか。今年度改定されたが、数字は動いていないのでは。R2がR1と同じ本数だとしたら、金額はどのくらい圧縮されるのか。

町 : 50%程度は改善される見込み。